

北海道檜山北高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和5年度に重点化する取組及び具体的方策		
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	目標達成期間	具体的方策
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	総合学科の特徴を活かし、探究活動であるキャリア学習と連携し、STEAM教育を推進する。また、本校栽培品及び加工品の製造から地域行事への参加、販売会の実施を行う。	A	キャリア学習と連動させた学習を行い、課題解決能力を育成する。また、地学協働学習を通して、自らが製造した生産物を販売することで、達成感を感じさせ、学習意欲向上につなげる。
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	国際交流及び海外農業実習等の情報提供を積極的に実施する。	A	海外農業研修の案内や国際交流についての情報提供及び案内を行い、興味関心のある生徒に対して参加を促す。
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	出前授業やインターンシップを通して、地域農家の生産技術や経営について学習を行う。	A	出前授業やインターンシップにおいて地域農家へ視察研修を行い、地域農業のあり方や経営について理解を深めさせる。また、GAPを元にした農場経営を学習する。
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	地域産業についての学習を実施する。	A	地域にある農業関連産業や施設の視察・学習を行う。また、原材料の生産から流通を学ばせることで多岐にわたる進路実現の一助とする。
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	SDGsの考え方を基に、地域環境や農業の現状について学習を深める。	B	化学肥料や農薬について学習することにより適正に使用することができるようにし、生態系を念頭においた循環型農業の学習を推進する。
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	地域資源を活用した加工品の製造及び販売を行い、地域の活性化につなげる。異校種及び異年齢交流を実施する。地域で行われている各種行事へ参加する。	A	授業で地域資源の研究及び活用を行い、地元食材を用いた加工品製造及び販売活動を通して、地域に貢献する態度の育成を図る。また、地域花壇造成活動や学校開放講座等を通して、地学協働学習を実施する。
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	ICTを活用し、「スマート農業」や「AI・IoTと農業」、「クラウドシステムの活用」についての学習をおこなう。また、農業データ連携基盤（プラットフォーム）について理解を深める学習を行う。	B	檜山振興局（出前授業）や、農業改良センターとの連携を図り、地域人材を活用した教育の実践を図る。また、オンラインを活用した授業実践を図る。
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	地域防災教育として、農地防災事業や農地の防災協力など多面的機能について理解を深める。また、農機具等の扱いなどに関する安全教育を推進する。	A	地域と連携し、地域防災・農地防災についての授業を行う。また、農業機械メーカーの方を招いた講習会等の実施。農作業による事故や食品事故防止など危機管理に努める。